

おしかけ座談会 結果

日時：令和元年10月7日（月）

午前11時40分～12時30分

会場：広尾中学校武道場

～ 広尾中学校3学年 総合的な学習の時間 ～

○参加者

広尾中学校3学年60名、担当教諭6名

○資料説明

- ・「10年後のまちを描く」「計画の体系構成案」による第6次まちづくり推進総合計画の説明

○懇談内容（生＝3学年生徒、町＝職員）

生：「絵に描いた餅」とはどういう意味か。

町：計画を作って事業を盛り込んでも、実現しなければ意味がないということ。絵に描いた餅は食べることができないので、昔の言葉でそういう風に表した。

生：「もっとサンタランドのまち」とはどういう意味か。

町：サンタメールなどサンタランドの取組を行っているが、サンタメールの発送通数も減少してきて、町民のサンタランドに対する熱が冷めている。もう一度サンタランドを町民が一体となって盛り上げたいという意味。

生：使えるお金に限られるという説明があったが、広尾町は1年でどれくらいの予算が使えるのか。

町：資料を用意していないので、正確な金額は言えないが、町の年間予算は何十億もあるが、借金を返したり、新たに借りたりしながらやりくりしている状況である。

生：旧広尾小学校の校舎を何かに使えないか。

町：3階建ての校舎は耐震性が無いので役場の書類を保管するなど、物置として使用している。体育館も同様。2階建ての校舎は耐震性があるので、陶芸サークルの活動場所などに使用しているが、建物が古いので、これ以上積極的に使用する考えはない。

○全体への質問

町：10年後、24歳か25歳になった時、広尾町に住み続けていると思う人（挙手）

→ 2～3人

町：いくらの方や魚のさばき方が分かる人（挙手）

→ 4～5人

町：まちのめざす将来像の第1専門部会から第3専門部会の検討案で一番良いと思う案は？（挙手）

→ 第3専門部会の「山・川・海がつくり出す おいしい、たのしい、うつくしい
心躍るまち、ひろお」が最多